# 第 34 回　唐の衰退と滅亡

## 1　唐の律令国家体制

・唐は、隋の中央集権体制を基本的に受け継ぎ、それを完成させた。
　→この体制を律令国家体制といい、他の東アジア諸国にも大きな影響を与えた。

・地方行政は、郡県制に近い（　　）が実施された。
・土地制度は、北魏や隋と同じく（　　）が実施された。
　→成年男性（丁男）に（　　）を支給し、死んだら返還させた。
　　※民衆には永業田、高級官僚には官人永業田という世襲の土地も与えられた。
　→貴族は（　　）と呼ばれる広大な私有地を持ち、隷属農民に耕させた。

・均田制にもとづき、（　　）という税制が実施された。
・均田制にもとづき、西魏以来の（　　）という兵制が採用された。
　→折衝府が兵士を集めて訓練し、都を守る衛士や辺境を守る防人とした。

・官吏任用制度では、隋以来の（　　）が実施された。
　　※蔭位の制という家柄によって貴族が優遇される制度もあった。
・（　　）と（　　）からなる行政制度を組織した。
・（　　）からなる法律を整備した。

則天武后
悪女とされることが多いが、近年はその政治が見直されてきている。
国号以外にも、漢字や称号の変更を行っている。

## 2　武韋の禍

◆（　　（武則天））（在位 690～705 年）
・高宗の皇后で、高宗の病に乗じて政権をにぎった。
　→690 年、中国史上唯一の女帝となり、国号を（　　）へと変更した。
・科挙官僚を積極的に登用するなど、中央集権体制をすすめた。

◆中宗（在位 683～684、705～710 年）
・高宗の後に即位したが、母の則天武后に廃位させられていた。
　→則天武后の死後に復位したが、今度は皇后の（　　）に殺された。
　　※この２人の女性が権力を握った事件を（　　）という。

## 3　唐の再興と衰退

・武韋の禍の混乱をおさめて、皇帝となったのが玄宗であった。
　→玄宗は、治世前半に唐を安定させたが、後半になると政治は乱れていった。

玄宗
前半は政治改革をすすめ、唐の政治を建て直した。
しかし楊貴妃を寵愛してからは、夜更かしをして朝起きないようになり、政治への関心を失った。

◆（　　）（在位 712～756 年）
・「　　」と呼ばれるすぐれた政治を行った。
・８世紀になると、府兵制は均田制の破たんにより実施が難しくなっていた。
　→兵士を集められなくなり、お金で兵士を雇う（　　）が導入された。
　→集まった兵士の指揮官として、辺境には（　　）が置かれた。

・751 年、中央アジアで起こった（　　）で、唐はイスラーム勢力の（　　）に敗れた。
　→この時、（　　）が中国から西方に伝わったとされる。

・玄宗は、治世の晩年に絶世の美女（　　）を寵愛し、政治は乱れた。
　→755 年、ソグド系の軍人で３つの節度使を兼ねていた（　　）と、その部下で同じくソグド系の（　　）が反乱を起こした。
　　※これを（　　）という。
　→チベット系の（　　）が、この混乱に乗じて一時的に長安を占領した。
　→唐はトルコ系の（　　）の援助で、ようやく反乱を鎮圧した。

高仙芝
高句麗出身の軍人で、タラス河畔の戦いでは敗れたが、能力は非常に高かった。最後は安史の乱に巻き込まれて死んだ。

ドラマ『楊貴妃』
世界三大美女のひとりとされる。実際はかなり豊満な体つきをしていたらしい。好きな食べ物はライチ。
安史の乱の際に殺された。

安禄山
父はソグド人、母は突厥人とされる。
体重 300 キロだが、素早い動きでダンスも得意だった。
しかし最後は糖尿病で失明し錯乱した。

## 4　唐の滅亡

・安史の乱の後、各地に置かれた節度使は行政や財政もにぎった（　　）として、事実上の独立状態となってしまった。

徳宗
少しだけ安定したが…

◆徳宗（在位 779～805 年）
・均田制が破たんし、租調庸制による税の徴収は不可能となっていた。
　→荘園と呼ばれる広い私有地を持つ者もいたが、戦乱で土地を失う者もいた。
　→780 年、宰相の（　　）の提案で、（　　）が導入された。
　　※戸籍上ではなく現住地の財産に応じて、夏・秋の２回に分けて課税した。

・875 年、塩の密売人の王仙芝と黄巣が（　　）を起こした。
　→907 年、大混乱の中、（　　）によって唐は滅ぼされた。

朱全忠